

教 育 委 員 会 だ よ り

令和4年度 全国学力・学習状況調査 の結果について

今年5月に町内の小学校6年生（29名）、中学校3年生（21名）を対象に行われた全国学力・学習状況調査の概要をお知らせします。

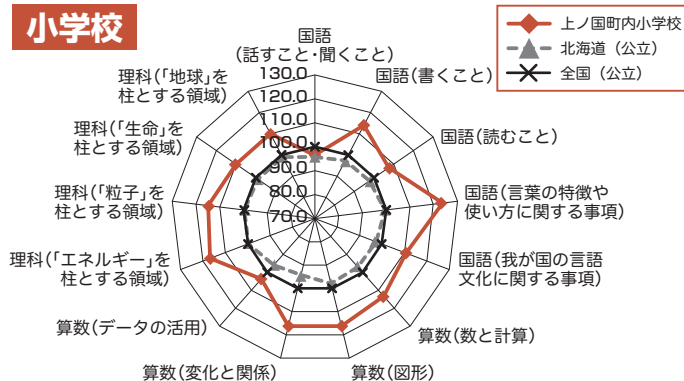
今回の学力調査は小学校6年生の国語・算数・理科、中学校の国語・数学・理科の3教科で行われました。

1. 調査の目的について

本調査は児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを継続することで、検証改善サイクルを確立することを目的としています。本調査の結果は児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部であり、教育活動の一側面である事に留意が必要です。

2. 調査結果について

小学校



「小学校/国語」

・全体としては全国・全道の正答率と比較して相当高い結果となっています。領域別では「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域が大きく上回っています。

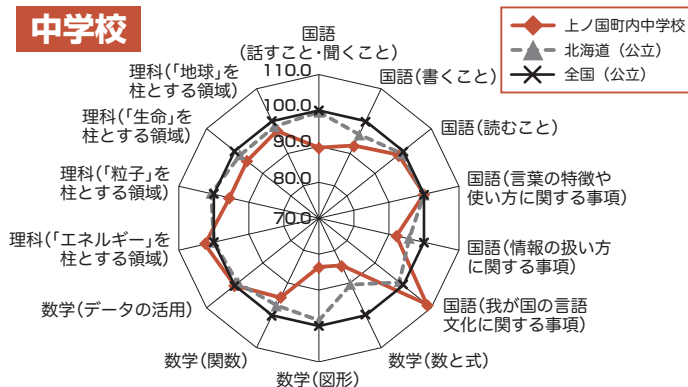
「小学校/算数」

・全体としては全国・全道の正答率と比較して相当高い結果となっています。領域別では「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域が大きく上回っています。

「小学校/理科」

・全体としては全国・全道の正答率と比較して相当高い結果となっています。領域別でも全ての領域で大きく上回っています。

中学校



「中学校/国語」

・全体としては全国・全道の正答率と比較して同程度の結果となっています。領域別では「我が国の言語文化に関する事項」の領域が上回っています。

「中学校/数学」

・全体としては全国・全道の正答率と比較して低い結果となっています。領域別では「データの活用」で全国と同様ですが、他の領域では下回っています。

「中学校/理科」

・全体としては全国・全道の正答率と比較して同程度の結果となっています。領域別でも全ての領域で同程度となっています。

3. 成果と課題について

成果

- ・小学校の正答率が全教科で全国平均を大きく上回る等、各学校における学力向上の取組が確実に実を結んでいます。また、「理科の授業が好きですか」という質問に対して小中学校の9割の児童生徒が肯定的な回答をしており、この結果から町内の学校において子どもの理科への関心を高める授業が展開されていることが伺えます。
- ・全国的に子どもの自己肯定感の育成が重要な課題となっていますが、「自分にはよいところがありますか」という質問に対して町内の小中学校とも肯定的に回答した児童生徒の割合が全国平均と比較して高い傾向にあります。

課題

- ・授業中での一人一台端末の使用頻度については、全国平均等と比較してもまだ少ない傾向にあり、今後の各学校での積極的な活用が期待されます。
- ・平日の家庭での学習時間では中学校における「30分～1時間」の割合が高く、発達段階に応じて期待される学習時間と比較して短い傾向にあります。

4. 学力向上の取組について

本調査の結果からは、これまでの学力向上の取組が確実に前進している傾向が見えます。今後も多角的に分析を進めながら、「学びの共同体」の取組の中で、児童生徒の実態把握や授業交流を進めます。また、ティームティーチングや少人数指導、特別支援教育や地域の英語塾等の学習支援を継続するとともに、一人一台端末の積極的な活用を推進して協働的な学習や個に応じた学習を実現していきます。